

高齢者福祉の環境整備を問う



前田 せつよ 議員

本町の総合計画における地域福祉の充実については、「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、地域福祉の充実を図ります。」と掲げている。

町は、福祉を目的とした町内巡回バスを4年前から運行している。

町民からは課題が残されているとの声もあり、具体的には買い物や通院などの移動で、自宅から停留所まで行き来することが難しい方々がいる。

問 移動支援の参考事例として奈良県田原本町では、長年移動支援を検討する中、デマンドバスを運用したものの、最終的には「初乗り運賃補助制度」に落ち着き、その後好評でデマンドバス運用時の5倍の利用者という。

本町独自で、移動支援の整備のために学識経験者を含む協議会を立ち上げては。

答 基本的には自治会からご意見を聞く。それだけでは足りないということだが、福祉的な部分だけでいいのかも

含め協議会等については検討する。
問 高齢者やその家族が気軽に立ち寄れる居場所づくりについて数を増やす考えは。

答 常設の居場所については重層的にということからも研究したい。

問 近隣では、NPOが庭付きの古民家を借りて常設の居場所づくりに取り組んだり、社協の主導で、町を生活圏から4か所に区分し毎月120名が集まる居場所を充足した自治体もあるが。

答 本町では、自治体や社協もやっているが、他自治体ではNPOや地域ボランティアが行い、そこから主体者も誕生している。社協が行うのか、NPOを育てるのか、あるいは地域ボランティアに任せるのか。そこは福祉の面保険健康の面と相互に絡む部分もあるので研究したい。



町内巡回バス

公園のさらなる利活用促進を

我が町には、利用頻度が高いものやいつ見てもあまり利用されていない公園がある。公園は、子どもの遊び場、地域住民の交流拠点、災害時の避難場所としての機能を備えており、町民の憩いの場として整備を進めているとある。

問 町の公園には、これらのニーズを満たす機能が備わっているのか。また、利用促進には常に行き届いた維持管理が肝要であるが、公園の現状、設置時の機能と狙い、管理の現状と課題は。

答 都市公園法に基づく都市公園が13か所、圃場整備に伴い整備した農村公園が10か所など合計46か所の公園があり、シルバー人材センターや造園業者、専門業者に委託して、機動的、適切な維持管理に努めている。

問 憩いの場であると感じることができず、みなみ地区の小規模公園を除いて、ほとんどない。憩いの場となる公園とは、どのような公園であると認識しているのか。

答 心が安らぐ場所であり、人と人の交流が図られるコミュニティの場であると考え。中家村公園や松ノ木河原公園のように、町が直接整備した公園では地域住民のニーズを基本コンセプトを定めて整備した。

問 維持管理がきちんとできていくところは、水辺スポーツ公園と駅前第二公園くらいで、その他の公園では、整備の作業をした時だけはきれいだが、しばらくすると手入れがなされていまい状態となっている。今後の維持管理を含めた整備方針は。

答 一度、整備した公園についても、必要に応じて再整備ということも検討していきたい。公園は常に快適にという形の中で、今後も効率性、効果的というところで検討を進めていく。



中家村公園



茅沼 隆文 議員

本町の投票率向上策と主権者教育の導入は



井上 慎司 議員

本町の投票率は下降線をたどっている。多様な世代の声を反映させるためにも選挙への関心を持つことが必要である。親の世代が高い資質を持った有権者になることが次世代の有権者を育てることになる。

自ら考え主体的に行動できる人間を育成するための主権者教育に取り組むことも重要であり、教育の町を掲げる本町の子どもたちが自ら考え主体的に行動できる力を育ててほしいと願う。

問 本町の投票率向上策は。

答 投票所の増設や期日前投票の利便性向上に向けた取り組みのための補正予算の計上をした。政治・選挙への関心を高め、投票環境を向上させるため、地道な活動を根気強く続けていく。

問 主権者教育を小・中学校から導入する考えは。

答 様々な活動を通じ主権者教育を実践しており、今後も学習指導要領に沿って資質・能力の育成に努めていく。

問 本町の選挙啓発の具体策は。

答 吉田島高校への出前授業の実施、文命中学校の生徒会選挙においては、実物の投票箱・記載台・ポスター掲示板を使ってもらっている。

問 小学生向けの選挙啓発の取り組みは。

答 小学生向けの啓発活動は行っていない。生涯学習講座を利用してほしい。
問 『あじさい塾』に主権者教育を盛り込んでいく考えは。

答 あじさい講座を再検討し充実させ、『あじさい塾』等への展開も考えていきたい。

問 神奈川県内でも多くの市町村で子ども議会の取り組みがされている。本町は子ども議会の導入を前向きに検討するか。

答 学校は日頃の教育に膨大な時間を割いている。そちらの回数との兼ね合いになるが、研究はしていきたい。



「ランク」も選挙も子どもが「決めよう」

児童・園児の交通安全対策は

滋賀県大津市の交差点で起きた園児保育士の死傷事故は大変痛ましいものだった。交差点の信号機は矢印信号機となっており、ドライバーがルールを守っていれば防げた事故であった。

開成駅南側の交差点は矢印式信号機がなく大変危険な場所と認識し以前から矢印式信号機の設置を要望しているところであり事故を防ぐため町の対策は。

問 開成駅南側の交差点の矢印式信号機について環境を整えて早期に解決していただきたい。

答 開成駅南側の交差点及び開成南小学校西交差点では朝夕のラッシュ時に右折することが大変難しいことは認識している。松田警察署・県会議員で構成する政党別議員団への要望など設置要望を継続している。子どもたちはもとより、高齢者など歩行者の安全確保のため要望、協議を継続していく。

問 教育委員会の対応は。

答 子どもたちの安全安心を確保する



湯川 洋治 議員



子どもたちの安全確保を

問 スクールゾーンについて路面のペイント・歩道・路側帯の拡幅等について検討があるか。

答 表示が見えづらいとか路面の状況補修等を含め状況を見ながら適宜対応していく。

問 危機管理マニュアルが策定されているが今回の事故の対策は。

答 学校の危機管理マニュアルは災害・不審者対策・傷病者が発生した場合等に基づき策定されているが、昨今の事件を受け登下校の安全確保など新たな状況を鑑みながら改定等を図っていききたい。